

平成30年度

島根大学大学院生物資源科学研究科修士課程（第1次）

環境資源科学専攻

入試問題

【小論文】

注意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙 1 ページ、解答用紙 2 枚、下書き用紙 2 枚である。
指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は、解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙、下書き用紙は持ち帰ること。

①は共通問題(必修)、②は専門問題(選択)です。②については1問を選んで解答しなさい。
なお、解答用紙の選択問題番号に丸印をつけなさい。

① 共通問題 (全員必ず解答しなさい)

国連によると2050年には世界の人口は約100億人に達すると予想されており、これまで以上に環境資源を賢明かつ持続的に使う必要がある。今後世界の人口を養い続けるために、あなたが重要であるとする環境資源を一つ挙げて、その持続可能な利用の方法について論じなさい。

② 専門問題 (下記の3問のうちから1問を選んで解答しなさい。また、解答用紙に記載された問1～3のうちの、選択した問の番号に丸印をつけなさい。)

問1 世界の発展途上国の多くでは現在も森林破壊が進んでおり、農地化がその理由の一つである。森林を開墾して農地にした場合、土壌の物理化学性にどのような変化が生じると予想されるか答えなさい。

問2 水の安全性は、「微生物学的安全性」と「化学的安全性」を確保することである。しかし、近年、現行の塩素殺菌法、水利用形態、今後の人口構成の変化等の観点から「微生物学的安全性の確保」に関する問題が提起された。その問題は何か。また、この問題を解決するために、現在検討されている水殺菌技術を2つ以上挙げ、その原理と利点・欠点について記述せよ。

問3 環境化学分野において、特定の化学物質だけに注目するのではなく、複数の分析対象物質を網羅的に分析するニーズが改めて重要視されてきている。その理由について、説明しなさい。

(問題は以上です)